

宮城県環境影響評価マニュアル（動物・植物・生態系）の改訂について

1 宮城県環境影響評価マニュアルの概要

宮城県環境影響評価マニュアルは環境影響評価条例で規定する技術指針を具体的に解説するものであり、環境影響評価制度の効果的な運用を図るために作成したものである。

本マニュアルは環境影響評価条例の施行にあわせ平成10年度に作成され、その後新たな技術手法などが提示されてきたことから、順次改訂を行い内容の充実を図ってきた。

昨年度までにひとつおりの改訂を終えており、現行のマニュアルは以下の7つとなっている。

平成13年度	宮城県環境影響評価マニュアル（動物・植物・生態系）改訂版
平成14年度	宮城県環境影響評価マニュアル（公害質）改訂版
平成15年度	宮城県環境影響評価マニュアル（事後調査）改訂版
平成16年度	宮城県環境影響評価マニュアル（人と自然との豊かな触れ合い・環境負荷分野）改訂版
平成17年度	宮城県環境影響評価マニュアル（環境保全措置）改訂版
平成18年度	宮城県環境影響評価マニュアル（方法書）改訂版
平成19年度	宮城県環境影響評価マニュアル（準備書・評価書）改訂版

これまでの改訂により現行のマニュアルは完成したが、平成19年4月に技術指針の改正を行っていることから、新たな内容の見直しが必要となっている。

今年度は、平成13年度に作成した動物・植物・生態系マニュアルの改訂を行うこととした。現行マニュアルは運用から約7年経過していることから、現行マニュアルの課題や最新の文献についても整理した上で検討することとした。

2 マニュアルの検討方法

- (1) 技術指針の改正内容を整理し、方法書マニュアルなど、他のマニュアルと比較した上で、改訂すべき内容を検討する。
- (2) これまでの環境影響評価手続きを踏まえ、現行マニュアルの問題点を明らかにした上で、改訂すべき内容を検討する。
- (3) 最新の文献や科学的知見に基づく事例などを調査し、現行マニュアルと比較検討の上掲載を検討する。
- (4) マニュアル改訂版の素案を作成する。
- (5) 環境影響評価マニュアル検討部会で素案を審議し、修正案を作成する。
- (6) 環境影響評価マニュアル検討部会で修正案を審議し、最終案を作成する。

3 環境影響評価マニュアル検討部会

「環境影響評価技術審査会の運営に関する規定」(資料1)第5条に基づき、部会を設置しており、技術審査会会長の指名により4名で構成している。

委員名	所属	専門分野
斉藤 千映美	宮城教育大学 環境教育実践研究センター准教授	動物全般(動物生態)
根本 智行	石巻専修大学理工学部教授	植物(植物相・植物分類)
平吹 喜彦	東北学院大学教養学部教授	植物(全般・植生) 生態学(植物生態)
由井 正敏	岩手県立大学総合政策学部教授	動物(猛禽類) 生態学(全般・動物生態)

4 改訂のスケジュール

(平成20年度)

時期	内容
4月 ~11月	改訂の検討及び素案の作成
11月	第1回環境影響評価マニュアル検討部会開催(11月14日) ・素案の説明及び意見聴取
11月 ~1月	素案を修正し、修正案として作成
1月	第2回環境影響評価マニュアル検討部会開催(1月中旬予定) ・修正案の説明及び最終案の確定
2月	製本原稿の完成 ホームページに掲載